

教育データの活用で チーム学校を支える

[スクタン]





「令和の日本型学校教育」で 重要な教育データ

社会の在り方が大きく変わる Society5.0 時代の到来によって、学校教育は大きな変革が求められています。

文部科学省は「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」で、これからの時代を生きる児童生徒の資質・能力の育成のために教育データの活用の重要性が書かれています。これまでの教職員の経験と勘に加えて、データをエビデンスにした確かな判断が大切となります。

個別最適な
学び

それぞれの学びを一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」を実現する

協働的な
学び

教育データが支える



「主体的・対話的で深い学び」を データが支える

教育データは、「主体的・対話的で深い学び」の実現を支え、その成果を把握することができるようになることが期待されています。例えば、教育委員会では、各学校の特徴や課題をデータから把握し、施策の立案や評価、学校訪問時の指導・助言に活用していきます。学校長は、自らの学校の特徴や課題を把握し、教職員が共通認識をもってチーム学校としてよりよい学校づくりを進めていきます。



児童生徒の実態を読み解き 授業改善や生徒理解の向上につなげる

本書では、一般社団法人 School Transformation Networking が提供する児童生徒の自己評価型の質問紙調査「ScTN (スクタン) 質問紙」の調査結果の活用方法をまとめています。

第2章は、教育委員会や学校長、教職員それぞれの立場から、学校運営や生活指導、学習指導についてのデータを読み解く内容になっています。

本書が、児童生徒の可能性を引き出し、チーム学校としてよりよい学校づくりの推進につなげていく一助となることを願っています。

P06 ScTN 質問紙とは？

P07 ScTN view とは？

「教育データを活用したチーム学校づくり」に向けて

ScTN 質問紙の調査結果を通して、
学校・クラスの特徴や課題を
データから客観的に把握することができます。
それらのデータによって
教職員同士が共通認識をもち、
「よりよい学校」づくりに向けて、
一体となって進めていくことを支援します。

教育データの活用でチーム学校を支えるハンドブック 09

〈生活指導〉 2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

自分に対する自信や、
まわりの人たちとの関係を読み解く

いじめや不登校には、様々な要因が関係します。
ここでは、未然防止や早期発見にも役立つ「人間性」の「自分自身のこと × 他者との関係」のグラフを読み解いていきます。

18

P08

第 1 章

理解する

「教育データを活用した
チーム学校づくり」
とは何か？

P12

第 2 章

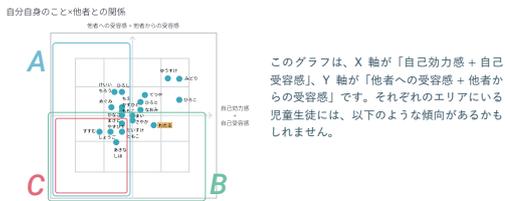
イメージする

「教育データを活かした
チーム学校づくり」
としてできること



一般社団法人 School Transformation Networking 「ScTN(スクタン)」

初等中等教育における「学びの構造転換」を実現する事業を展開している一般社団法人です。具体的には、教育学や心理学をはじめとした学術の諸理論と、ICT や教育データに代表されるデジタル技術とを利活用することで、学校や教育委員会の「学びの構造転換」に関する取組を支援しています。



- A** 自分自身のこと(自己効力感+自己受容感)が低い場合
なにか失敗したり、周りから責められたりすることがあると、とても落ち込み、「学校に行きづらい」と思い詰めてしまうことがあるかもしれません。
- B** 他者との関わり(他者への受容感+他者からの受容感)が低い場合
仲間や先生、家族など心を通わせる交流が乏しく、孤立感や孤独感を感じているかもしれません。学級や学校では、いじめの可能性も考慮する必要があるかもしれません。
- C** 自分自身のこと・他者との関わりがともに低い場合
「どうせ自分なんか」「自分なんかいない」と思い詰めて、自分の存在を否定したり、居場所をなくしたりして、不登校につながってしまうかもしれません。

ただし、いじめや不登校には、一つ一つのケースによって異なる要因や原因があります。調査結果を手掛りに、児童生徒が、自分自身や周囲との関係をどのように認識しているかをひもとくことが大切です。

POINT 埋もれている児童生徒に着目する
一番低いところにいる児童生徒は、先生もすでに気づいていることが多いはずですが、真ん中よりも少し下の層を中心に、全体の中に埋もれてしまいがちな児童生徒を見つけ、「あれ? どうしてここにいるのだろう」という違和感をもつことが大切です。

回答の変化に注意する
図表内の**わたるさん**は、仲間との関係などで悩み事を抱えており、今後、自分自身のことも低下してくるかもしれません。自己効力感や自己受容感が下がっていないか、回答の変化に注意しつつ、未然防止や早期発見についても考えてみましょう。

ワークシート 2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

①調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

②調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

③質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

P26

付録

実践する

ScTN view 読み解き会
ワークシート

代表理事：山口 裕也氏(独立研究者)
理事： 苫野 一徳氏(熊本大学大学院教育学研究科・教育学部准教授)

<https://sctn.jp/>



ScTN 質問紙とは？

一般社団法人 School Transformation Networking が提供する児童生徒の自己評価型の質問紙調査「ScTN（スクタン）質問紙」は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）に搭載され、全国の児童生徒が受検できます。

質問紙は、「学校教育の経験」「成長」「学校教育の成果の実感」の3つから構成されています。



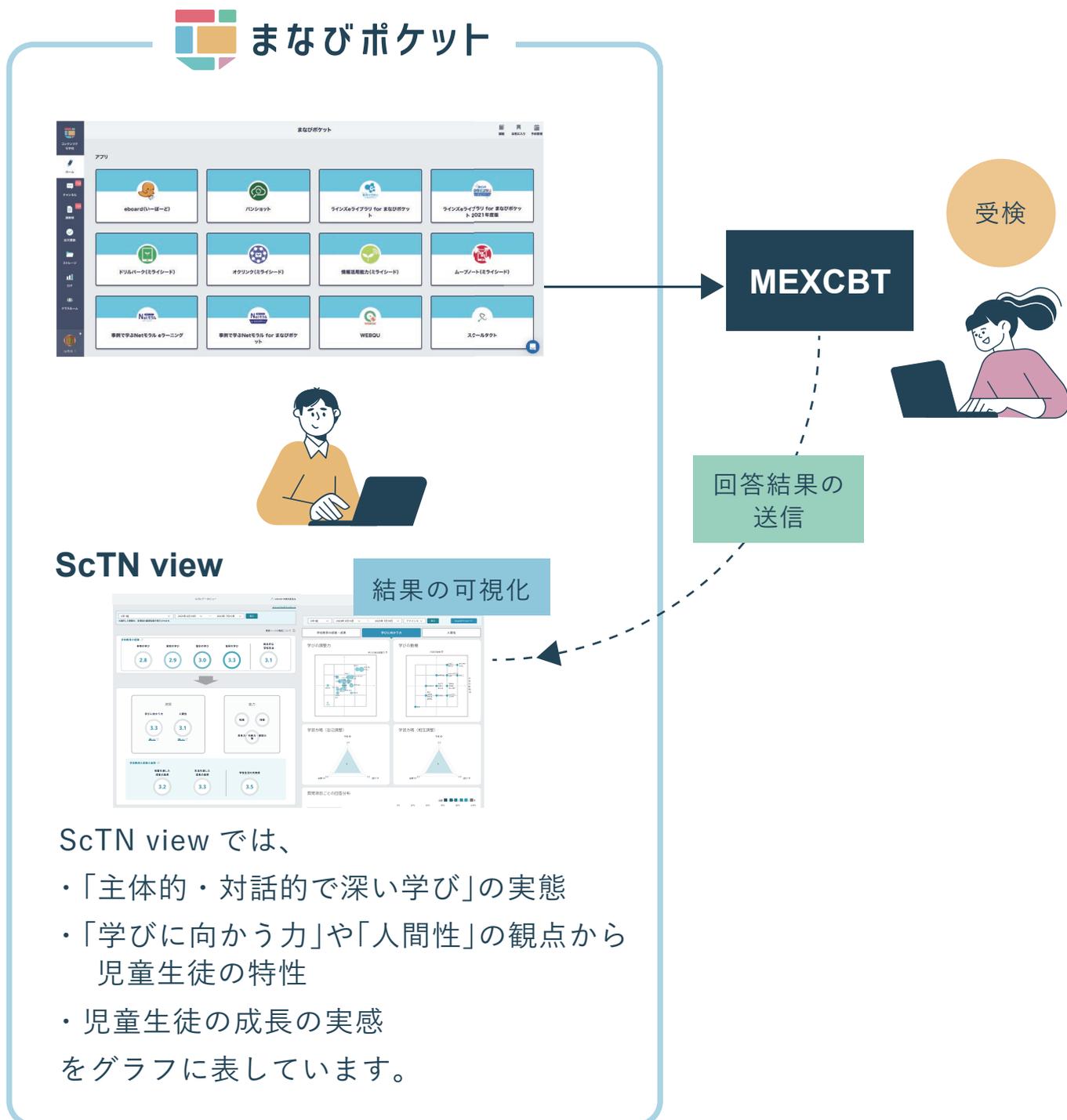
目的や実施時期に応じて3つのパッケージを提供しています。

	タイミング	所要時間	総質問数	学校教育の経験	学校教育の成果の実感	学びに向かう力	人間性
ライト	適宜	10分	13問	10問	3問	—	—
ベーシック	学期に1回	15分	33問	10問	3問	8問	12問
アドバンス	年に1回	25分	71問	10問	3問	34問	24問

ScTN view とは？

MEXCBT で行った調査結果を ScTN view として提供し「主体的・対話的で深い学び」の実態や児童生徒の特性、成長の実感を可視化します。

各学校の特徴や課題を見つけ、行動改善につなげていくことができます。



第1章

理解する

「教育データを活用したチーム学校づくり」 とは何か？



「教育データを活用したチーム学校づくり」に向けて

ScTN 質問紙の調査結果を通して、

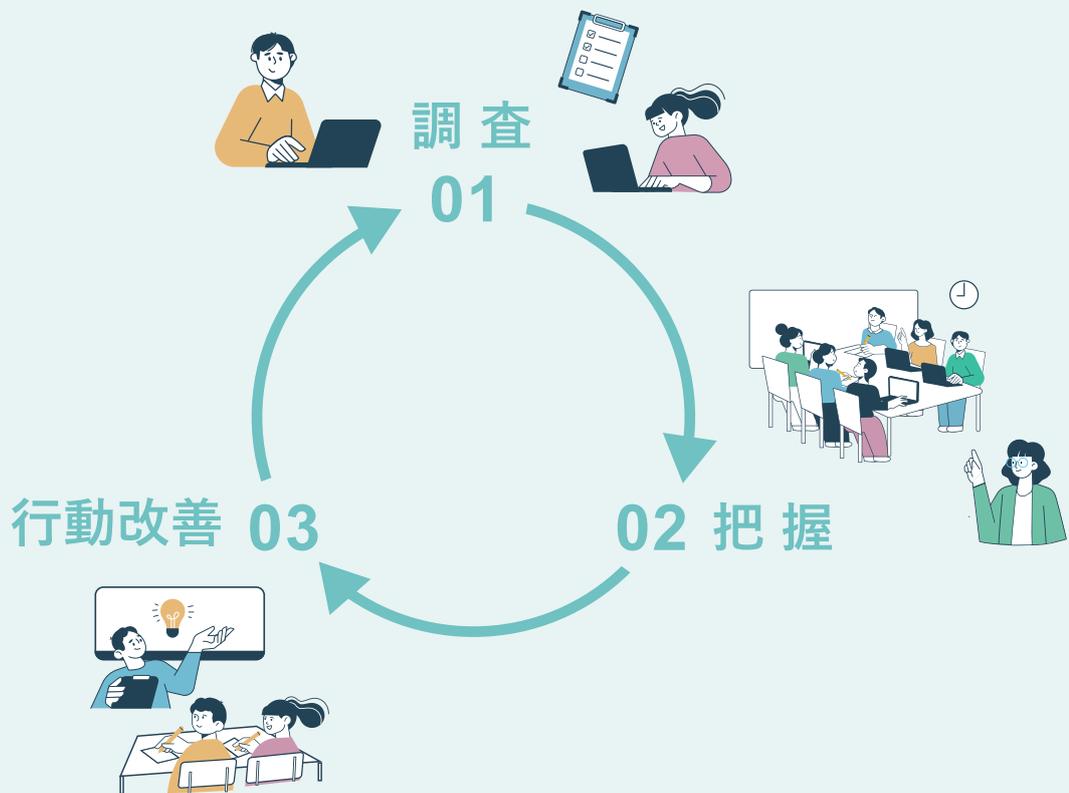
学校・クラスの特徴や課題を
データをもとにしたエビデンスとして把握することができます。

それらのデータによって

教職員同士が共通認識をもち、

「よりよい学校」づくりに向けて、

一体となって進めていくことを支援します。



データをエビデンスに 教職員が一体となって、

01 調査

MEXCBT を通して、
質問紙調査を行います



先生から児童生徒に
MEXCBT を通して質問紙調
査を配信し、受検する

02 把握

調査結果をエビデンスに、
学校やクラスの特徴や課題を把握します
※実践の方法は、第2章をご覧ください

経験と勘 + エビデンス

調査結果を分析し、多角的に特徴や課題を把握する

【調査結果が自分の見取りと同じ場合】

児童生徒の実態に対する教職員の予想



粘り強く
学習に取り組む
児童生徒が増えて
いるのではないか

|| 一致

調査結果



粘り強さ

粘り強く学習に取り組む
児童生徒が増加傾向

主体的・対話的で深い学びに取り組んでいきます。

03

行動改善

よりよい学校をつくっていくため、
教職員が一体となって
取り組んでいきます



自信をもって
取り組めるように、
スモールステップで
進めていこう！



教職員の会議や研修等で、調査結果を
通した学校の特徴や課題を認識し、よ
りよい学校をつくっていくために、一
体となって取り組んでいく

【調査結果が自分の見取りとは異なった場合】

児童生徒の実態に対する教職員の予想



自分に自信をもつ
児童生徒が増えて
いるのではないか

≠ 不一致

調査結果



自分に対する自信(自己効力感)

児童生徒の
「自己効力感」は低下傾向

第2章

イメージする

「教育データを活用したチーム学校づくり」 としてできること



まなびポケットの「ScTN view」とは

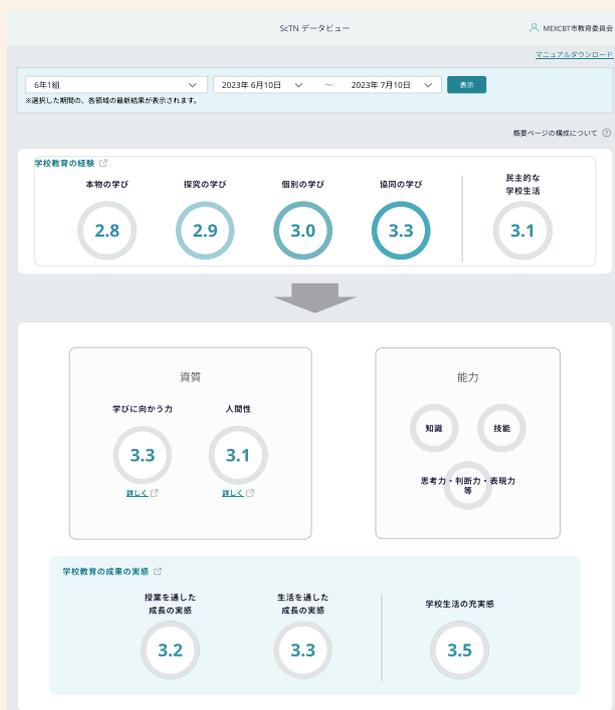
ScTN view を使うことで、

教育データを通して、

教職員間で課題の共通認識のもと、

解決に向けてチーム学校として

動き出すことができます



〈 学校運営 〉

1. 児童生徒が主体の学校をつくる

様々な観点から、
児童生徒が主体的に取り組めているかを把握する

〈 生活指導 〉

2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

自分に対する自信や、
まわりの人たちとの関係を読み解く

3. 児童生徒の深い理解のために

自分の見取りと調査結果の不一致を考える

〈 学習指導 〉

4. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

授業改善の糸口を「学校教育の経験」から見つける

5. 学びに向かう力の育成に向けて

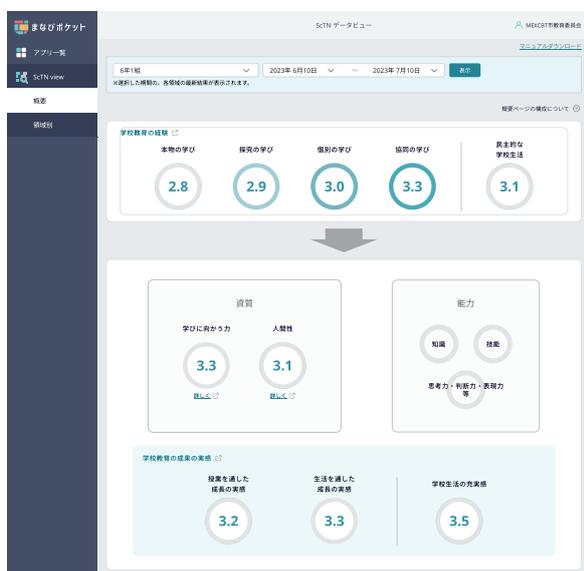
「学びに向かう力」を
「自己調整」「相互調整」と「粘り強さ」から読み解く

ScTN view では、ユーザーごとに様々な結果が表示されます

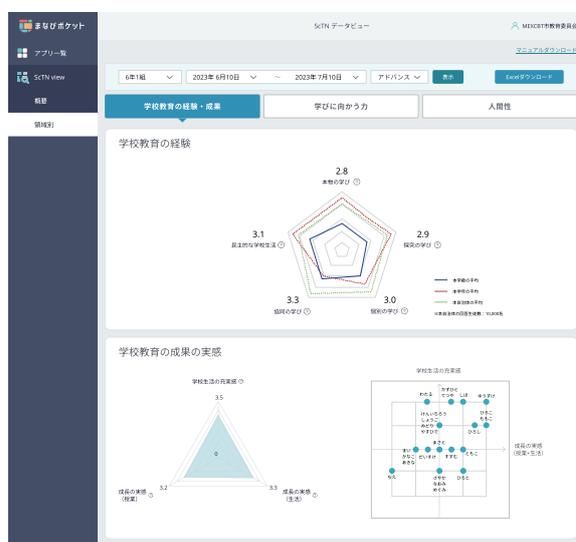
- ・ 教職員：担当する学級の集計結果
- ・ 学校管理者：学校全体および各学級の集計結果
- ・ 教育委員会：教育委員会全体および各学校の集計結果

〈教職員の場合〉

概要



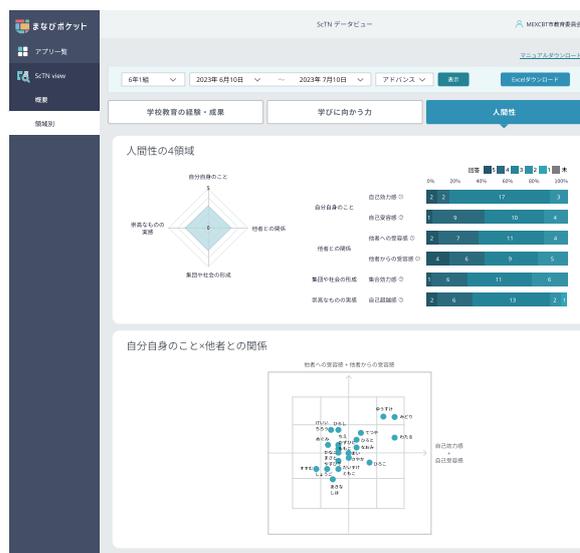
領域別 > 学校教育の経験・成果



領域別 > 学びに向かう力



領域別 > 人間性



〈学校運営〉 1. 児童生徒が主体の学校をつくる

児童生徒が主体となる学校づくり

ここでは主に「民主的な学校生活」「学びの調整力」「集合効力感」「成長の実感」を表す4つの項目から、「児童生徒が主体の学校づくり」について考えていきます。

学校を自分たちで作り上げているという実感



まずは学校教育の経験を見てみましょう。数値は、1.0～5.0で表示されます。「民主的な学校生活」の値が高いほど、児童生徒は学級や学校を自分たちで作り上げていると感じています。これらの値は、以下の質問項目への回答結果から表示しています。

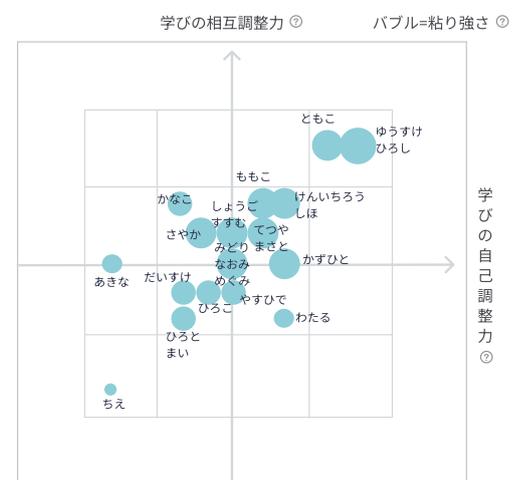
評価規準の趣旨	質問項目
民主的な学級づくり	学級のみんなに関わることは、自分たちで全員の考えや気持ちを確かめてから決めている
民主的な学校づくり	学校生活で誰かが疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意して変えたりしている

学びの調整力を育む

「学びの調整力」は、計画を立てたり、仲間と協力したりしながら、問いや課題を解決したり、未知に挑戦したりしていく学びの力です。この力を育むことは、みんなで学校をつくる力にもつながります。



学びの調整力



集合効力感を高める

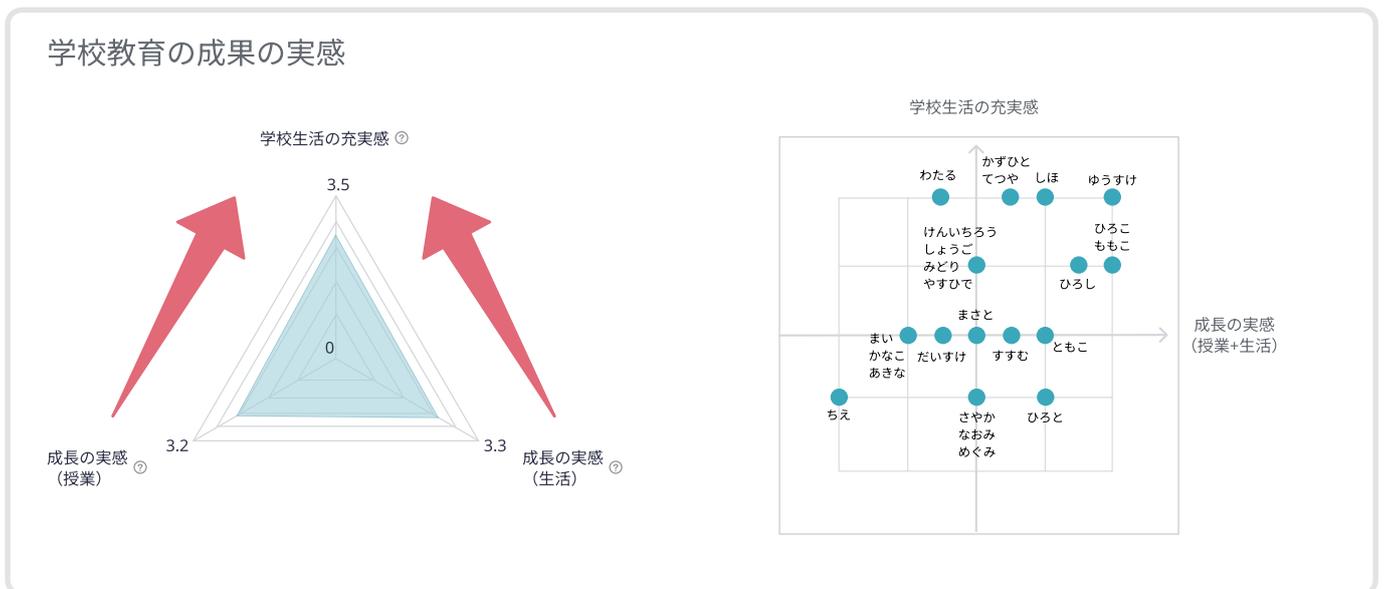
集合効力感	学級生活の集合効力信念	いまの学級のメンバーなら、協力して、自分も他の人も全員が居心地のよい学級がつかれると思う	2	5	10	6	1
	学校生活の集合効力信念	いまの学校のみんななら、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う	6		10		8
	地域社会の集合効力信念	いま住んでいる地域のみんななら、協力して、そこで暮らす全員が「好きだ」と感じられる地域をつくれると思う	1	4	13		6
	国民国家の集合効力信念	いま日本で暮らしている人々なら、協力して、どんな人も差別されず、幸せに生きられる国をつくれると思う	3	4	9		8

そして、みんなで学校をつくる力にとって大切になるのが、「集合効力感」です。「自分たちなら、できる！」という自信のことです。

集合効力感を高めるためには、授業だけではなく、学級や学校を自分たちでよりよく変えていく経験も必要です。

たとえば、「みんなが自分らしく学んだり生活したりできる学級のルールを考える」、「自分たち全員で創り上げる行事にする」など、物事や社会をみんなで合意しながらつくり上げていく経験です。

成長の実感「学校が楽しい」にもつながる

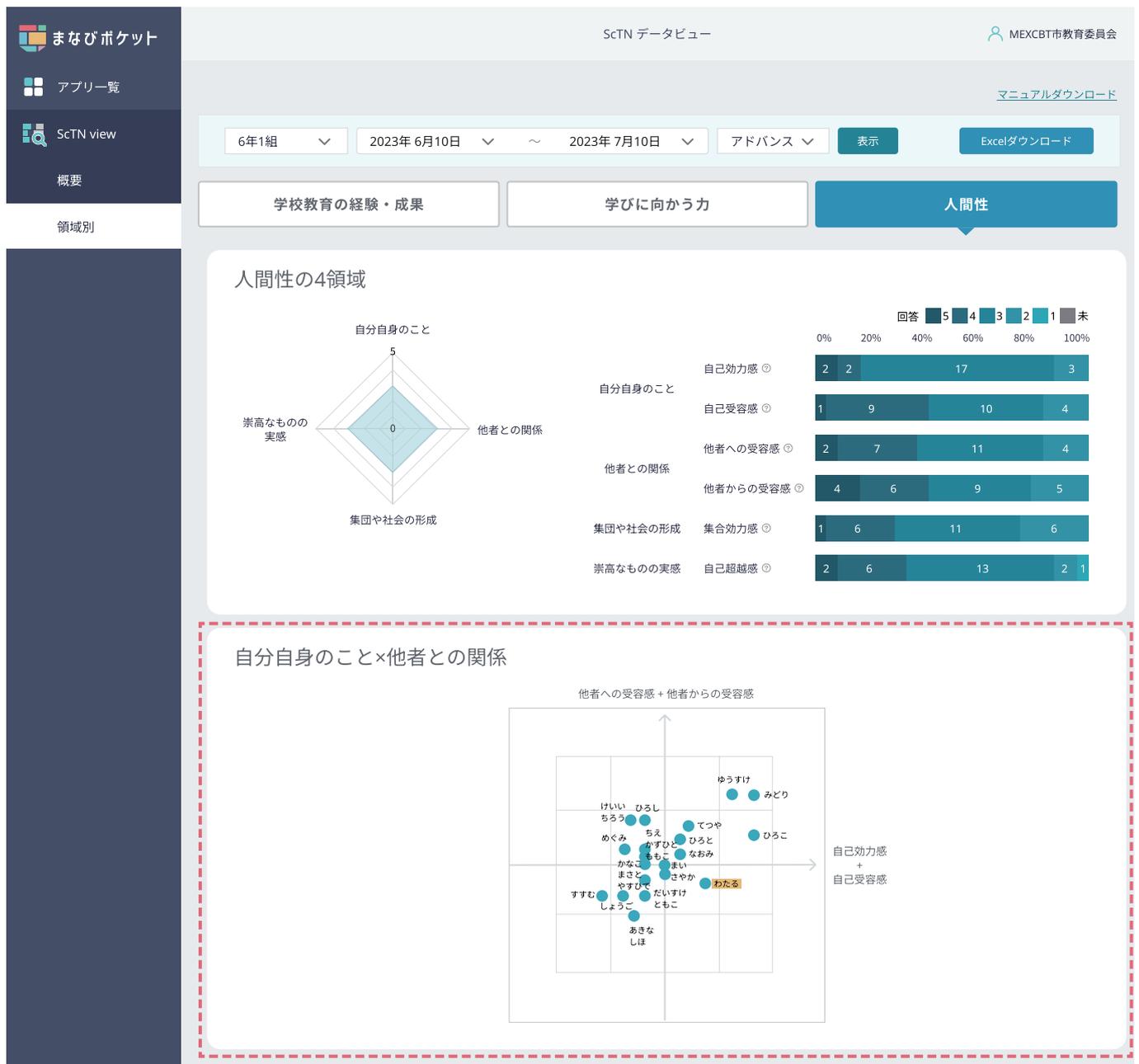


学校での学びや生活は、「授業で学ぶことによって、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている」や「みんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている」といった質問項目の回答（成長の実感）に影響します。そして、成長が実感されてくると、学校生活の充実感を意味する「学校が楽しい」という項目にもプラスの変化が表れてくることが多いです。

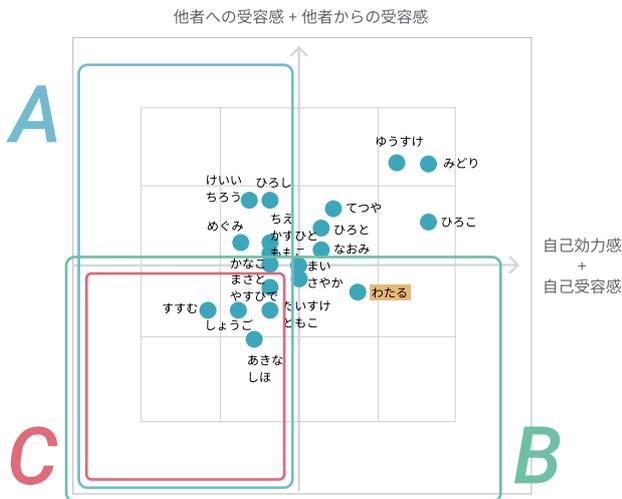
自分に対する自信や、まわりの人たちとの関係を読み解く

いじめや不登校には、様々な要因が関係します。

ここでは、未然防止や早期発見にも役立つ「人間性」の「自分自身のこと × 他者との関係」のグラフを読み解いていきます。



自分自身のこと×他者との関係



このグラフは、X 軸が「自己効力感 + 自己受容感」、Y 軸が「他者への受容感 + 他者からの受容感」です。それぞれのエリアにいる児童生徒には、以下のような傾向があるかもしれません。

A

自分自身のこと
(自己効力感と自己受容感)が低い場合

なにか失敗したり、周りから責められたりするようなことがあると、とても落ち込み、「学校に行きづらい」と思い詰めてしまうことがあるかもしれません。

B

他者との関わり(他者への受容感と他者からの受容感)が低い場合

仲間や先生、家族などと心を通わせる交流が乏しく、孤立感や孤独感を感じているかもしれません。学級や学校では、いじめの可能性も考慮する必要があるかもしれません。

C

自分自身のこと・他者との関わりがともに低い場合

「どうせ自分なんか」「自分なんかいなくても」と思い詰めて、自分の存在を否定したり、居場所をなくしたりして、不登校につながってしまうかもしれません。

ただし、いじめや不登校には、一つ一つのケースによって異なる要因や原因があります。調査結果を手掛りに、児童生徒が、自分自身や周囲との関係をどのように認識しているかをひもとくことが大切です。

POINT

埋もれている児童生徒に着目する

一番低いところにいる児童生徒は、先生もすでに気づいていることが多いはずですが、真ん中よりも少し下の層を中心に、全体の中に埋もれてしまいがちな児童生徒を見つけ、「あれ？どうしてここにいるのだろうか」という違和感をもつことが大切です。

回答の変化に注意する

図表内のわたるさんは、仲間との関係などで悩み事を抱えており、今後、自分自身のことでも低下してくるかもしれません。自己効力感や自己受容感が下がっていないか、回答の変化に注意しつつ、未然防止や早期発見についても考えてみましょう。

〈生活指導〉 3. 児童生徒の深い理解のために

自分の見取りと調査結果の不一致を考える

児童生徒一人一人を深く理解する第一歩として、自分の見取りと調査結果の不一致が手掛りになることがあります。質問項目に対する回答は、児童生徒の「内なる声」と捉えることができるからです。



画面上部には、要約されたデータが表示されています。

スクロールしていくと、質問項目ごとの回答結果を見ることができます。

このグラフの数値にカーソルをあてると、児童生徒の氏名が表示されます。特に着目してほしいのは、肯定的な回答をしていると予想した児童生徒が、否定的な回答をしている場合です。

ケーススタディ 児童生徒のありのままを肯定する

ここでは、教師との関係を表す「学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる」という質問項目に着目してみましょう。

たとえば、リーダー的な存在である **なおみさん** がいたとします。先生としては、以下の質問項目に、肯定的に回答すると予想していました。

しかし、質問紙調査での回答結果は以下のようでした。

			予想	結果
他者への受容感	認知的共感性	相手が自分とは違う考えや気持ちでも、最初から否定しないで受け止めている	肯定	やや肯定
他者からの受容感	仲間からの認知的共感	学校には、自分の考えや気持ちを分かってくれる仲間がいる	肯定	どちらともいえない
	教師からの認知的共感	学校には、自分のことを認めてくれる先生がいる	肯定	やや否定

仲間との関係は、リーダー特有の葛藤があったと考えれば理解できます。しかし、教師との関係については、明らかに自分の予想とズレていました。

そこで、「他者からの受容感」に含まれる他の質問項目の結果を見返してみました。すると、「身近な地域の大人」や「家族・保護者」との関係に否定的に回答していたのです。

			結果
他者からの受容感	家族・保護者からの認知的共感	自分には、自分の生きたいように生きることを応援してくれる家族や保護者がいる	否定
	身近な地域の大人からの認知的共感	自分には、自分のやりたいことを応援してくれる身近な地域の大人がいる	やや否定

調査結果から、図表内の **なおみさん** には、大人から褒められたことを素直に受け容れることが難しい「大人への不信感」があるのではないかと考えました。そこで、**なおみさん** に対しては、今後、「ありのまま」を肯定するような関わりを心がけることにしました。

調査結果や対応の方針は、教職員で共有することにより、多様な立場から一人一人を見守ることにつながります。また、児童生徒のプライバシーを尊重しつつ、家族・保護者との連携についても考えてみましょう。

POINT

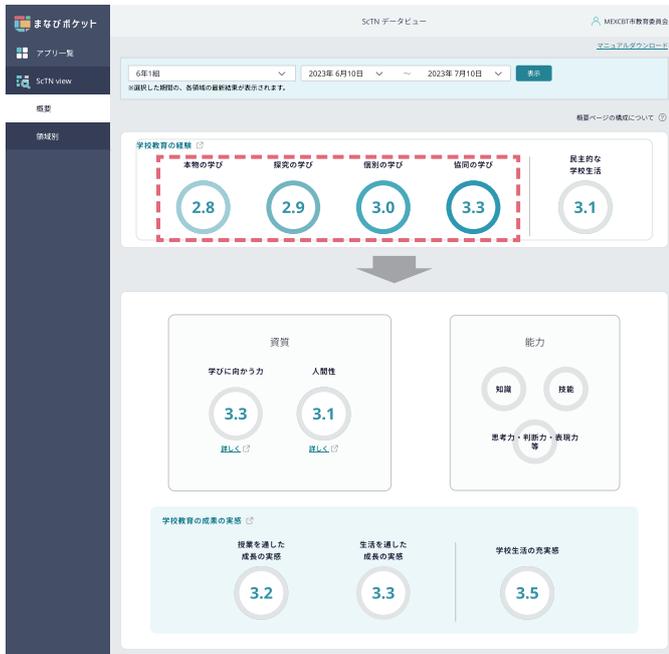
養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携する

気になった児童生徒がいれば、養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとも連携してみましょう。様々な立場から一人一人を見守ることが大切です。

〈学習指導〉 4. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

授業改善の糸口を「学校教育の経験」から見つける

よりよい授業について、「本物の学び」「探究の学び」「個別の学び」「協同の学び」の4つの観点から考えます。



概要 view の構造について

この画面は、児童生徒が学校教育の「経験」を通して「成長」し、それが「実感」される過程を表現したものです。

調査結果からは、

1. 「主体的・対話的で深い学び」の実現
2. 「学びに向かう力」や「人間性」の育成
3. 成長の実感

について知ることができます。

よりよい授業について考えるときは、「学校教育の経験」に含まれる質問項目の内容が参考になります。

観点	評価規準の趣旨	質問項目
本物の学び	状況に埋め込まれた学習	授業では、普段の生活のことや、社会で問題・話題になっていることを材料に学んでいる
	自己決定に貫かれた学習	授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる
探究の学び	内発的な探究	授業では、自分の興味や関心に基づいて、自分なりに問いや課題を立てて学んでいる
	挑戦的集中	授業では、挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいる
個別の学び	個性化した学習	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる
	個別化した指導	授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる
協同の学び	内発的な協同	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる
	協同の活用	授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている

本物の学び

探究の学び

個別の学び

協同の学び

2.8

2.9

3.0

3.3

ここでは、主体的・対話的で深い学びに必要な4つの学びの観点に着目していきます。それぞれのグラフと数値の色は、4観点の中で低いものほど薄くなっています。まずは、色が薄い観点に着目してみましょう。

1 本物の学び

- ・学習の題材や材料を、日常の生活場面や社会で話題になっていることにする
- ・児童生徒が学び方を自分で決めながら進めることを授業の基本にする

2 探究の学び

- ・一人一人の興味や関心をそのまま受け止め、解決を目指す問いや課題を自分なりに立てる
- ・試行錯誤しながら学習を進められるよう、問いや課題のレベルを、誰かと協力すれば解決できるくらいの適度に挑戦的なものへ導く

3 個別の学び

- ・学習計画表や振り返りシートを基に自分の学び方について理解を深めさせ、得意なことを生かし苦手を補うことができるような学習の仕方を考えながら学びを進めさせる
- ・一人一人の興味や関心、得意や苦手に応じ、児童生徒が自ら進める学びを後から追うように支える

4 協同の学び

- ・誰かと協力することを学び方の選択肢にしつつ、異なる感じ方や考えによって学びを広げ深め合えるよう、時に、先生が学習するペアやグループを決める
- ・ふとした疑問や違和感を積極的に肯定しつつ、互いの違い・個性を生かし合う方法を考えさせる

4つの学びの観点は、全てが相互に関係しています。

たとえば、学ぶ方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶこと（個別の学び）は、「学び（授業）を進めるのは、自分だ」という実感（本物の学び）につながります。

また、失敗と挑戦を繰り返す（探究の学び）中で自分だけでは乗り越えられない壁にぶつかった時、苦手を補ってもらえる誰かと協力して学ぶこと（協同の学び）もあるでしょう。

数値が低かった観点や質問項目を中心に、調査結果を授業改善に活かしていくことにより、主体的・対話的で深い学びを実現していくことができます。



〈学習指導〉 5. 学びに向かう力の育成に向けて

「学びに向かう力」を 「自己調整」「相互調整」と「粘り強さ」から読み解く

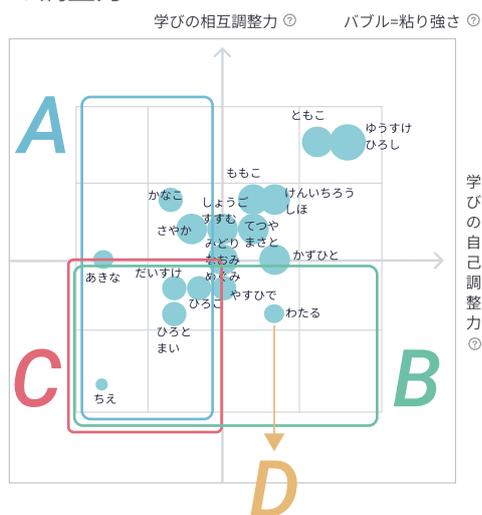
「学びに向かう力」の状況を、「学びの調整力」のグラフから読み解きます。
X 軸が「学びの自己調整力」、Y 軸が「学びの相互調整力」、バブルサイズが「粘り強さ」です。



「学びの相互調整力」ってなに？

ScTN 質問紙では、「主体的に学習に取り組む態度」（自己調整、その粘り強さ）に加えて、「対話的に学習に取り組む態度」（相互調整、その粘り強さ）を設定しています。主体的・対話的で深い学びの実現に欠かせない「協働的な学び」に対応するものです。

学びの調整力



A

学びの自己調整力が低い場合

自分一人の力で目標や計画を立てて学習をしたり、見通しの立たない問いや課題に挑戦したりする学び方を苦手と感じているかもしれません。

B

学びの相互調整力が低い場合

みんなの中で自分の得意を生かしたり、誰かに苦手を補ってもらったり、他の人のよさを考えて役割分担をしたりする学び方を苦手と感じているかもしれません。

C

どちらも低い場合

学ぶこと全般に苦手意識をもっているかもしれません。隣の「学びの動機（内発的動機 × 外発的動機）」のグラフでも、同じエリアにいる可能性があります。

D

バブルサイズが小さい場合

学びの自己調整力や相互調整力が高くても、バブルサイズが小さいことがあります。「粘り強さ」が低い状態です。具体的には、できるだけ自分なりにやり続けたり（自己調整）、全員で学習をやり遂げたり（相互調整）することを苦手と感じているかもしれません。

この調査結果を評定材料に使うことは想定されていません。学びに向かう力の育成に向けて、授業改善の参考材料にすることが大切です。

POINT

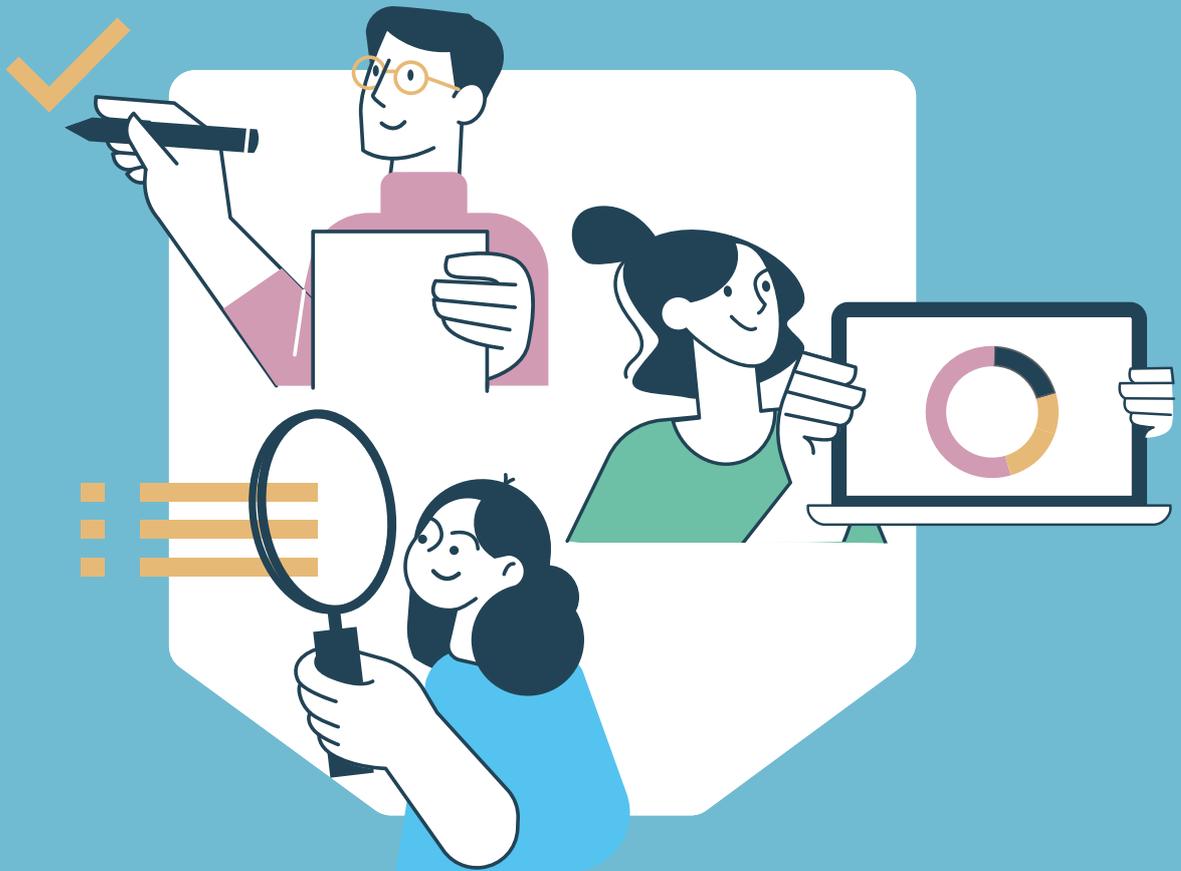
他の領域や観点の結果と合わせて考察する

たとえば、自分の力で学習を進めることが苦手な児童生徒は、「人間性」の「自己効力感」が低いことも考えられます。誰かと協力して学びを進めることが苦手な児童生徒は、「他者への受容感」や「他者からの受容感」が低い可能性もあります。

付録

実践する

ScTN view 読み解き会 ワークシート



P29 ScTN view 読み解き会

ワークシート

〈 学校運営 〉

P31 1. 児童生徒が主体の学校をつくる

〈 生活指導 〉

P32 2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

P33 3. 児童生徒の深い理解のために

〈 学習指導 〉

P34 4. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

P35 5. 学びに向かう力の育成に向けて

個人で ScTN view からデータを読み解くだけでなく、教育委員会内や校長会、教員研修など質問紙の調査結果を読み解き、話し合う「ScTN view 読み解き会」を開催することで、より一層、チームで一体となって「よりよい学校」づくりを進めていくことができると考えています。

ここでは、「ScTN view 読み解き会」の進め方や、その中で利用するワークシートを紹介します。



ワークシートの使い方

第 2 章のデータの読み解き方の解説ページと付録のワークシートを対にして、調査結果を読み解いていきます。

データの読み解き方の解説ページ

ワークシート

〈学習指導〉 5. 学びに向かう力の育成に向けて

「学びに向かう力」を「自己調整」「相互調整」と「粘り強さ」から読み解く
 「学びに向かう力」の状況を、「学びの調整力」のグラフから読み解きます。
 X 軸が「学びの自己調整力」、Y 軸が「学びの相互調整力」、バブルサイズが「粘り強さ」です。

A 学びの自己調整力が低い場合
 自分一人の力で目標や計画を立てて学習をしたり、見通しの立たない問いや課題に挑戦したりする学び方を苦手と感じているかもしれません。

B 学びの相互調整力が低い場合
 みんなの中で自分の得意を生かしたり、誰かに苦手を補ってもらったり、他の人のよさを考えて役割分担をしたりする学び方を苦手と感じているかもしれません。

C どちらも低い場合
 学ぶこと全般に苦手意識をもっているかもしれません。隣の「学びの動機（内部的動機 × 外発的動機）」のグラフでも、同じエリアにいる可能性があります。

D バブルサイズが小さい場合
 学びの自己調整力や相互調整力が高くても、バブルサイズが小さいことがあります。「粘り強さ」が低い状態です。具体的には、できるだけ自分なりにやり続けたり（自己調整）、金銭や学習をやり過ぎたり（相互調整）することを苦手と感じているかもしれません。

ただし、この調査結果を評定材料に使うことは想定されていません。学びに向かう力の育成に向けて、授業改善の参考材料にすることが大切です。

POINT 他の領域や観点の結果と合わせて考察する
 たとえば、自分一人で学習を進めることが苦手な児童生徒は、「人間性」の「自己効力感」が低いことも考えられます。富か効力として学びを進めることが苦手な児童生徒は、「他者への受容感」や「他者からの受容感」が低い可能性もあります。

ワークシート 2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

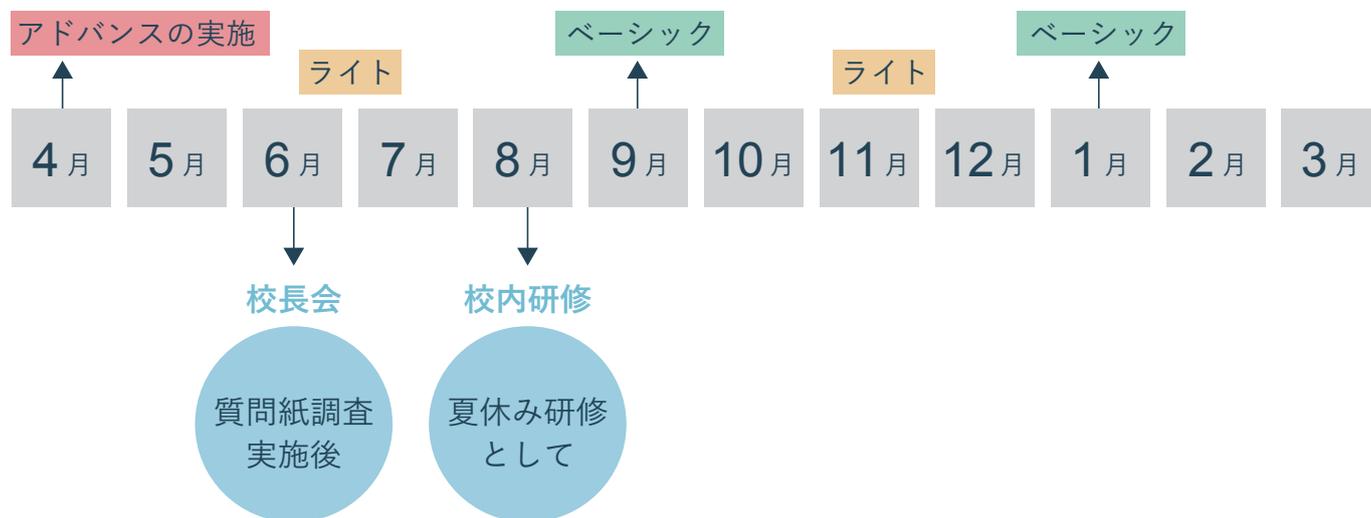
①調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

②調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

③質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

『ScTN view 読み解き会』の開催タイミング

ScTN 質問紙の実施後に、教育委員会内での打合せや校長会、教員研修などで開催することを想定しています。



『ScTN view 読み解き会』の流れ（例）



記入例：1. 児童生徒が主体の学校をつくる

①調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

■学校教育の経験

- ・本物の学びと探究の学びが他よりも低くて、この2つだけ2.0台

■学びの調整力

- ・けっこう、上から下まで分布している
- ・調整力が高いと自己評価している子は粘り強さも高い

■集合効力感

- ・学級について言うと、同じ授業を受けて同じ活動をしているのに、回答がばらついている

■学校教育の成果

- ・学校が楽しくても成長を実感できていない子（わたるさん）がいる
- ・成長を実感できていても学校が楽しくない子（ひろとさん）がいる

②調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

- ・結果は、分布図の一人一人の座標も含めおおむね想像してたとおりだった。
- ・本物の学びと探究の学びが低いのは、予想と一致していた。自分が教える授業や、基礎的な練習問題を繰り返しやる時間が多いことが原因だと思う。
- ・集合効力感の学級の回答がばらついていたのは調査結果を見て気がついた。雰囲気の良い学級だから、多くの子が居心地がよくて、少数の子だけがそうではないと思っていた。（大半は4とか5の回答で、数人が1とか2の予想）
- ・学校生活の充実感が3.5で高めだったが、分布を見たら、1はいなかったが2をつけた子はある。また、3の「どちらでもない」もそれなりにいた。
- ・こうしてデータを見ると、一人でデータを読み解いて考えるのではなく、学年の先生とデータを見合っ、いろいろ考えていくことが大切だと感じる。

・
・
・

③質問項目の内容も参考に、今後の改善の手だてを書きましょう

- ・質問項目を見返して気付いたことは、「子どもたちが自分で学ぶ、自分たちで生活する」といった内容になっていること。
- ・明日から何ができるか、できそうか、と考えてみると、最初の一步は、協同の学びにあった「授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。」を実現することだと思った。
- ・これまで、算数の授業では、全員で問題を把握して、解決の見通しをもって、まず一人で解決する。次にクラスみんなで考えるといった流れだった。しかし、協力が必要なタイミングは、一人一人、違ってくる気づいた。一人とみんなの時間をまとめて、協同の学びを個々のタイミングに委ねることをやってみようと思う。

・
・
・

ワークシート 1. 児童生徒が主体の学校をつくる

①調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

②調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

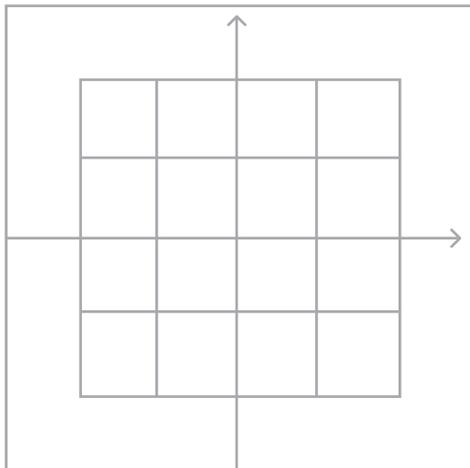
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

③質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ワークシート 2. いじめ、不登校の未然防止・早期発見のために

他者への受容感 + 他者からの受容感



自己効力感
+
自己受容感

① 調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

② 調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

③ 質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

ワークシート 4. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

本物の学び



探究の学び



個別の学び



協同の学び



① 調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

<hr/> <hr/> <hr/>

② 調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

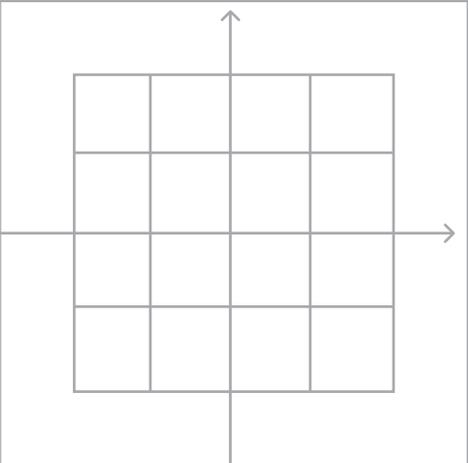
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

③ 質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

<hr/> <hr/> <hr/>

ワークシート 5. 学びに向かう力の育成に向けて

学びの相互調整力 バブル = 粘り強さ



① 調査結果を見て、大まかな傾向を書き出しましょう

② 調査結果と普段の自分の見取りとが一致しなかったところを中心に、その原因を探りましょう

③ 質問項目の内容も参考に、今後の改善の手立てを書きましょう

教育データの活用でチーム学校を支える ScTN view ハンドブック

発行日

2023年6月（第1版）

発行者

NTT コミュニケーションズ株式会社

スマートエデュケーション推進室

KOEL DESIGN STUDIO by NTT Communications



お問い合わせ

まなびポケットサポートサイト

<https://manabipocket.ed-cl.com/support/>

